



鶏 鳴

けいめい

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

聖書の言葉

「どこにいるのか」

聖書(創世記3章9節)

牧師 河合裕志

皆さんは「失樂園」の話、知っておられるかも。エバが蛇に誘惑されて禁断の木の実を食べて神の罰を受けエデンの園より追放される物語。これは創世記の3章に載っている。もう少し子細に記せば・・・

蛇「園のどの木からも食べてはいけない、などと神は言われたのか」

女(エバ)「わたしたちは園の木の果実を食べてもよいのです。でも、園の中央に生えている木の果実だけは、食べてはいけない、触れてもいけない、死んではいけないから、と神様はおっしゃいました」。

蛇「決して死ぬことはない。それを食べると、目が開け、神のように善悪を知るものとなることを神はご存じなのだ」。

こんなやりとりがあつて果して女は蛇の誘いに負け、「実を取って食べ、一緒にいた男(アダム)にも渡したので、彼も食べた」。ここで恐ろしいのは蛇が神の言葉を真っ向から否定するところ。神は言っていた。「園のすべての木から取って食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう」(2章16～17節)。

「食べると必ず死ぬ」に対して蛇は「決して死ぬことはない」と言い切った。神へのあからさまな挑戦。また「神のように善悪を知るものとなる」、神のような勝れた

存在になるよ、と言ってそそのかした。

さて実を口にしたら彼らはどうなったか。

「二人の目は開け、自分たちが裸であることを知り、二人はいちじくの葉をつづり合わせ、腰をおおうものとした」。それまで二人は真っ裸であつたけれど恥ずかしいとは思わなかった。天真爛漫。しかし以後は互いに防禦、亀裂が生じることに。これは神の命令に背いたとの罪の意識の芽生えとも言えそう。果して神の接近を感じた彼らは恐ろしくなり木の間に隠れた。

すると神の声、「どこにいるのか」。

エデンの園の東に住むようになった人類に神は今も声をかけている、「どこにいるのか」。いつまでも隠れていないで私とまた共に樂園に生きる者となつてほしい。私は私の子イエスを世に遣わし彼を十字架につけて人類の罪の身代りとした。今やイエスを通して樂園、天国への道が備えられている...と。イエスは言う。「あなたは今日わたしと一緒に樂園にいる」(ルカ23・43)、樂園・天国に神とイエスと多くの親しい人々が楽しく暮らしている。私達、樂園を目指しながら地上での様々な苦難・課題に取り組んで行こう。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

中高青年会：日曜日礼拝後

聖書を学び祈る会：水曜日午前10時

牧師面談：水曜日午後1時～7時